

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成27年5月21日 (2015.5.21)

【公開番号】特開2013-204749(P2013-204749A)

【公開日】平成25年10月7日 (2013.10.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-055

【出願番号】特願2012-75791(P2012-75791)

【国際特許分類】

F 1 6 D 13/70 (2006.01)

F 1 6 D 13/52 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 13/70 A

F 1 6 D 13/52 C

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月30日 (2015.3.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

前記クラッチインナ 1 8 A は、前記クラッチアウト 1 7 内に同軸に配置されるようにして円筒状に形成され、複数枚の被動摩擦板 2 0 , 2 0 ... の内周部が軸方向の移動を可能とするとともに相対回転を不能として該クラッチインナ 1 8 A の外周に係合される。前記受圧板 2 1 A は、前記クラッチアウト 1 7 およびクラッチインナ 1 8 A 間に介在する位置に配置され、前記クラッチインナ 1 8 A の一端が前記受圧板 2 1 A に一体に結合される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

また前記受圧板 2 1 A には、前記クラッチインナ 1 8 A および前記可動カム部材 5 2 のスプライン係合部 6 1 に潤滑油を導く潤滑油路 6 7 が設けられており、前記メインシャフト 1 1 からの潤滑油を、前記スリーブ 2 8 の内周および前記メインシャフト 1 1 の外周間、前記受け板 5 5 と前記スリーブ 2 8 および一次被動歯車 1 6 との間の間隙、ならびに受圧板 2 1 A の端面を経由して前記潤滑油路 6 7 に導く経路 6 8 の途中に、前記メインシャフト 1 1 と同軸の前記皿ばね 5 9 が配置される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

また前記潤滑油路 6 7 の前記付勢部材側の開口端に前記皿ばね 5 9 からの潤滑油を導くガイド部 6 9 が、前記皿ばね 5 9 を囲む円形にして前記受圧板 2 1 A に設けられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 6 3 】

またカム機構 5 0 を可動カム部材 5 2 と協働して構成するようにして前記メインシャフト 1 1 に相対回転不能に連結される固定カム部材 5 1 に、受圧板 2 1 A が相対回転可能に嵌装され、クラッチインナ 1 8 A の軸方向に沿う一端側に臨む環状受け面 5 8 が固定カム部材 5 1 に設けられ、受圧板 2 1 A を前記環状受け面 5 8 に押しつける付勢力を発揮する付勢部材である皿ばね 5 9 が、メインシャフト 1 1 に設けられる受け板 5 5 および受圧板 2 1 A 間に設けられるので、受圧板 2 1 A および固定カム部材 5 1 の成形公差等による寸法差が生じた場合であっても受圧板 2 1 A を押圧板 2 2 A 側に向けて固定カム部材 5 1 に押しつけて、クラッチ接続タイミングのずれが生じるのを抑制することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 1】

